



学校だより No.9

加治木の風

「読書・あいさつ・あせ」

始良市立加治木小学校

令和2年12月8日

「人は城，人は石垣，人は堀， 情けは味方，仇（あだ）は敵なり」

戦国武将，武田信玄の名言として残されている言葉です。「りっぱな城があっても人の力がないと役に立たない。国を支える一番の力は人の力であり，信頼できる人の集まりは強固な城に匹敵する。」という信玄の考え方や生き方を表しています。この考えは，人材育成を重視し，人を城として考え，決してりっぱな城を築かなかった島津家の考えと共通するところがあります。

学校もいかにりっぱな物的教育環境が充実していても子供と向き合う教職員に熱意と力量がなければ教育効果を上げることはできません。本校職員は，常に子供の姿で，授業や学級経営，生徒指導等について，課題や改善の方法等について話題にします。そこには子供が主役の授業にしたい，1人1人の可能性を伸ばしたいという思いがあります。

11月17日（火）には，「主体的・対話的で深い学びを実現できる授業づくり」というテーマの下，地区の研究公開を行いました。地区内外から来られた48名の先生方を前に，子供が主役になる授業のあり方を研究発表，研究授業という形で観てもらいました。

自分の考えを根拠を示しながら交流し学びを深める



大造じいさんとガン(5年)



ごんぎつね(4年)

【参加された先生方の感想から】

- 子供たちが自分の考えを根拠や自分なりの解釈を示しながら，発表している姿がすばらしい。
- 子供たちの考えが子供たち自身でつないでいたところがすごい。
- 子供たちの楽しそうな顔から「学ぶこと」を楽しんでいるなど感じた。
- 子供たちが主体的に取り組む姿がとても印象的だった。対話を通して，それが先生の言葉かけを通してさらに深まっていると思った。
- 担任の先生の熱意や子供たちの生き生きした姿を見ることができ，研究に即した対話的な授業を見させてもらい充実した時間となった。
(一部抜粋)

子供の姿で本校の取組を評価していただいたことは何よりも励みになります。加治木小児童が持つ力をさらに引き出せるように，ひたむきに研究実践に取り組む姿勢をこれからも大切にしていきたいと思えます。

「群れて遊ぶ」

昼休み，校庭から子供たちの楽しそうな声が聞こえてきます。遊びは正に人との関わり方や社会のルールを身近に学ぶ場。コロナ禍にあって，昼休みは子供たちにとって貴重な群れて遊ぶ時間になっています。

